

チャイルドシートアセスメントの結果の概要について

1. チャイルドシートアセスメントの実施方法

チャイルドシートアセスメントは、自動車アセスメント実施要領に基づいて行っています。なお、実施要領については、平成16年6月に意見の募集を実施し、広く一般の方々の意見を伺って作成しました。

2. 試験対象チャイルドシートの選定方法について

試験対象とするチャイルドシートは、国が定める安全基準(道路運送車両の保安基準)または海外(欧州及び米国)の基準に適合しているもので、平成15年4月から平成16年3月までの1年間の出荷台数の実績を基に上位のものから選定(前年度までに試験を実施したものを除く。)するとともに、チャイルドシート製作者等から試験の申し出のあったものも選定しています。なお、昨年度と同様に、乳児用、幼児用を対象とし、学童用は対象にしていません。

上記原則に則り、平成16年度は、出荷台数の実績の多いものを基本として、乳児用チャイルドシート5製品(幼児用と兼用タイプ4製品を含む。)と幼児用チャイルドシート9製品(乳児用と兼用タイプ4製品を含む。また、製作者等からの試験の申し出による1製品を含む。)を選定しました。

3. 前面衝突試験の評価結果

(1) 評価の概要

前面衝突試験は、チャイルドシートを取り付けた試験用車両に、自動車の時速55kmでの前面衝突時と同様の衝撃を発生させて行います。衝突速度は自動車アセスメントのフルラップ前面衝突試験と同様、より高い安全性能を評価する観点から、国の安全基準(道路運送車両の保安基準)における衝突速度の1割増で実施しています。

乳児用は進行方向後ろ向き、幼児用は前向きにチャイルドシートを取り付けて試験を実施しています。

それぞれの評価項目についてダミーによる計測等を行い、前面衝突試験の評価を、「優」、「良」、「普通」及び「推奨せず」の4段階で評価しています。

なお、「推奨せず」とは、より高い安全性能を評価する本試験の結果からは推奨に至らないことを表しており、使用不可という意味ではありません。試験対象とした製品は、日米欧のいずれかの基準に適合しており、一定レベルの安全性は確保されています。

(2) 乳児用チャイルドシートの試験結果

乳児用チャイルドシート5製品の評価結果は「優」4製品、「良」2製品で、「普通」及び「推奨せず」となった製品はありませんでした。なお、5製品のうち1製品は、後ろ向きと横向き(ベッド型)の2種類の取り付けができるため、それぞれの状態で評価しました。

平成13年度以降の試験結果と比較をすると以下のとおりとなります。

乳児用チャイルドシートの前面衝突試験結果

評価区分	16年度	15年度	14年度	13年度
優	4	3	4	5
良	2	1	4	1
普通	0	0	2	8
推奨せず	0	0	0	6
合計	6	4	10	20

(3) 幼児用チャイルドシートの試験結果

幼児用チャイルドシート9製品の評価結果は「優」1製品、「良」3製品、「普通」2製品及び「推奨せず」2製品でした。また、全体評価を行わないとしたものが1製品ありました。

平成13年度以降の試験結果と比較をすると以下のとおりとなります。

幼児用チャイルドシートの前面衝突試験結果

評価区分	16年度	15年度	14年度	13年度
優	1	1	0	0
良	3	0	8	8
普通	2	3	1	5
推奨せず	2	1	0	8
評価なし	1	1	0	0
合計	9	6	9	21

4. 使用性評価試験の評価結果

(1) 評価の概要

ユーザーによる自動車の座席への確実な取り付けがしやすいように配慮されているかなど、チャイルドシートの誤った使用を防止する観点から、使用実態を反映した5つの評価項目（取扱説明書等の記載内容、本体表示内容、機構の性能、座席への取付け、乳児/幼児の着座性）について、5名の専門家により、標準的なレベルを3点として、1～5点で判定を行います。

(2) 試験結果

全ての評価項目について標準的なレベル（3点）以上となる使用性に優れるチャイルドシートが7製品ありました。評価項目によっては比較的高い評価のものが多く見られる一方で、評価の低いものも多く見られました。

使用性評価結果について、平成13年度以降の試験結果と比較をすると以下のとおりとなります。

乳児用/幼児用チャイルドシートの使用性評価試験結果

評価区分	16年度	15年度	14年度	13年度
取扱説明書等の記載内容	3.4	4.0	3.7	3.1
本体表示内容	3.3	3.8	3.9	3.4
機構の性能	3.3	3.8	3.6	2.8
座席への取付け	3.6	4.1	3.9	3.2
乳児/幼児の着座性	3.0	3.8	3.8	3.0

